

# 昭和二〇年代における地方版国語教科書の研究

— 北海道版国語教科書の実態と特色 (二) —

吉田裕久

## 本稿のはじめに—前稿との関連—

北海道国語教育連盟は、北海道版小学校国語教科書『小学国語』（昭和二八年度初版）を編集・発行した。ここに「北海道には北海道の教科書を」という北海道国語教育関係者の長年の悲願が実現した。この後さらに「北海道化」を進展させる作業が継続し、改訂版、三訂版を発行することになる。

前稿では、北海道小学校国語教科書『小学国語』の初版の編集・発行について、背景、実態、特色等の観点から明らかにした。そこで、本稿では、その続編として、改訂版、三訂版について、編集の経緯、教科書の実態・特色及び意義などについて明らかにすることを目的とする。延いては、本教科書が、戦後教科書検定制度下における地方版国語教科書の一つの特色ある試みであることについて言及したい。

## II 北海道版国語教科書（改訂版）の実態と特色

### 1 北海道版国語教科書（改訂版）発行の背景

第四回全道国語教育研究大会は、昭和二十七年十月二十九日、札幌市の山鼻小学校を会場にして開かれた。北海道国語教育連盟が編集・発行したばかりの『小学国語』（昭和二八年度初版）の改訂が早くも話題にされ、協議の結果、次のような結論に達している。

各地区代表から、地区で討議した結論の報告や意見希望等が述べられた。その結果、（1）低学年用挿絵は全般的に書きかえる必要がある。（2）文章、挿絵のより適正をはかりたい。（3）供給本はもつと上質紙としたい。などという意見が出て、これらの実現のために改訂の方向をとることとなり、出版社の代表者からも改訂要望事項については誠意をもってそれに応ずる準備があるという力強い激励があり、事務局長三浦氏は、執筆者を代表して改訂決議の提案をし、ここに改訂案可決、次年度採用教科書から更にすぐれたものを子どもたちに使わせる目安がはっきりした<sup>1</sup>。

こうして、北海道版小学校国語教科書は、初版を出した翌年、直ちに改訂版（二九年度）を出すことになったのである。上の文章中にも登場していた連盟事務局長の三浦一は、後年、この点について、次のように述べている。

せっかくでき上った教科書を改訂しようと考えたことについて、ある人から、でき上ってすぐ変えるようなことはしないで、二、三年はそのまま使用するようにしてほしいという手紙をもらったのは「小学国語」改訂の話の直後であった。

これも、むりからぬことであるとは考えるが、日進月歩の時代に北海道版だけが古いままに年を経るということも良心的でないと考え、できたばかりではあつたが、すぐに改訂することにふみ切つた。

初めてできた北海道版としては、たしかによくできていたとは思つたが、短時日に仕上げたという欠点は、おおい去るわけにはいかなかつた。大きな望みではあるが、われわれは、日本一のすぐれた国語教科書をめざした。

改訂にふみ切つた大きな要素はつぎの点であつた。

○文章表現、語い、文字提出を調整した。

○教材の中で、子どもの理解しにくいものを一そうし、風土的色彩のあるものにさしかえるようにした。

○さしえを全面的にかきかえ、明るく、リアルなものを採用し、とくに子どもの服装季節感を十分考えた。なお動植物については、実情とずれが生じないように注意した。——この改訂版は、昭和二十九年、三十年度に使用された<sup>2</sup>（傍線は引用者、以

（下同じ）

「日進月歩の時代に北海道版だけが古いままに年を経るということも良心的でないと考え、できたばかりではあつたが、すぐに改訂することにふみ切つた」——おそらくこれが本音であつただろう。本来ならば、現場の使用に対する反応を見て、その改訂版の作成を試みたかつたであろうが、その時間はなかつた。その点からすれば、この改訂版は、もともと初版の一部訂正という性格を有していたのである。「日本一のすぐれた国語教科書」とはいささか大仰な表現ではあるが、こうした意識の基に改訂に踏み切つたのであろう。その意気込みの強さは、十分に伝わってくる。

## 2 北海道版国語教科書（改訂版）の実態

昭和二九年度改訂版は、教育出版から全国版（前稿の符号ではD）と北海道版（同、E）の二種が同時に刊行された。

この両者の教科書で多くの教材が併用されたが、全国版と北海道版とで異なっている（北海道版に固有の）教材を書き出してみると、次のようになっている。矢印の上が『改訂 国語』（全国版）、下が『改訂 小学国語』（北海道版）である。

- 「一の上」 （挿絵が大きく改められ、北海道化されている。）
- 「一の中」 めだか↓うぐいのこ
- 「一の下」 すなはま↓山の上
- 「二の上」 ひばりのおうち↓こうし
- 「二の下」 たこあげ↓そりすべり
- 「三の上」 異同なし

「三の下」 かたつむり日記↓私のかんさつ日記

ラッパ↓馬とおおかみ

「四の上」 宮沢賢治↓依田勉三

「四の下」 異同なし

「五の上」 シナリオを読みましよう にしん漁（新設）

「五の下」 風景・たんぼ・山の子ども・春↓夜風

良沢と玄白↓最上徳内

「六の上」 パスツール↓宮部金吾

キャンプ日記↓阿寒観光日記

「六の下」 異同なし

以上、多少の教材の入れ替えはあったが、一教科書当たり一教材程度、連盟が意気込んだほどには大きな変革ではなかった。しかも前年度発行の北海道版初版と比べるとはさほど大きく異なるものではなかった。初版から一年しか経っていないこと、しかも現場での使用経験を持たないことなど、変更を考えるための条件が整っていないことが大きな背景としてあったと思われる。

ただ挿絵については、前掲の第四回全道国語教育研究大会（昭和二十七年一〇月二九日）での討議の結果、「1低学年用挿絵は全般的に書きかえる必要がある。2文章、挿絵のより適正をはかりたい。」をふまえて、北海道的に改善されている。たとえば、「二の上」の冒頭部で登場人物の服装や身の周りの挿絵が北海道向けになっている。改訂版の最大の特徴は、この挿絵の改善・改革にあった。しかし、挿絵を変えると教科書のイメージは大きく変わる。いわゆる「見栄え」である。この挿絵の改訂から、教科書の北海道化に向けて、大



大きく前進したという印象を与えたのではないだろうか。長ズボンであったり、残雪であったり、暖房器具であったり、春のイメージが大きく身近に感じられたことであろう。それは挿絵レベルではあったが、他ならぬ「自分たちの教科書」の実現であっただろう。30ページに、冒頭の四ページを示した。上が全国版、下が北海道版である。

### III 北海道版国語教科書（三訂版）の実態と特色

#### 1 北海道版国語教科書（三訂版）編集・発行の経緯

大きな改革は、三訂版に現れた。「北海道国語教育」第一号には、齋藤七郎次北海道国語教育連盟委員長の「小学国語の改訂について」という論稿が掲載されている。二八年、二九年に続く三回目の改訂に向けて「宣言」とでも言うべきものになっている。

世の中は刻一刻前進している。

その前進につれて、ことばが創られている。それは単語だけでなく、或程度まとまった話ことばも、徐々ではあるが、変化しつつある。

ことばを表す文字も日々改善されつつある。文章もまた然りである。

国語の教科書は、これらの前進に対して、適切な敏感さをもって、修正が加えられていかなければならない。しかも、単なる追隨的な修正ではなく、国語生活の理想的な論理性、簡潔性、優美性に立って行われなければならない。

こうした立場に立って、わが「小学国語」は常に、現場の教師の声に耳を傾けてきている。又、子供達の感覚の清新さを、教材の上に反映させることを怠らなかつた。

このように、常に修正を加えてきていることは、昔の教科書のように、弟妹にそのまま譲れないという不都合はあったが、その不都合を克服して、なお余りある程の教科書の本質としての価値を高めてきたつもりである。

今、わが「小学国語」は、本年の展示会には一年の改訂版を、来年は二、三学年というように大幅な改訂を計画している。思慮稠密に、あくまで北海道に育つ日本人の、りっぱな国語教科書として天下に誇示できるものを作りあげたいと念じ、且つ努力している。

この齋藤の教科書改訂に関する言わば総論を受けて、三浦一が各論とも言うべき「小学国語第一学年（上中下）改訂の趣意」について、同号で、以下のように述べている。

この教科書は、全国的な視野に立っていることはいうまでもないが、今回はとくに北海道各地の要望に答え、北海道地域の特性を生かした。

○題材の選定について

①児童の生活に即して題材を選定し、生活的な場のなかで国語の諸能力が習得されていくように考慮した。

②入門段階にあるという特殊性をつねに意識し、題材の配列には、国語能力の発展に即応するよう十分に考慮した。

③学習生活、家庭生活、遊びの生活、自然、物語など、子どもの

生活をめぐる広い領域から題材を選び学習に変化をあたえるとともに、ゆたかな言語経験があたえられるように配慮した。

④季節、行事などに即して題材を選ぶようにし、とくに北海道地域の自然的、社会的な特性に適應する細心の注意をはらった。

とくに北海道の風土的な特殊条件を考えたものの例をあげるとつぎのようなものがある。

1 桜の開花期…五月上旬にした。

2 運動会を春、遠足を秋にし、北海道の学校行事の慣習に合わせた。

3 夏休み、冬休みの時期、期間を道内のもものと合わせるようにした。

4 雪の降る時期、雪を中心にした遊び、行事、馬そり、石炭ストーブなど、北海道のものに合わせるようにした。

⑤題材執筆者の中には、北海道国語教育連盟もくわわり、北海道の子どもの作品もくわえた。

○学習活動の組織について（以下略）<sup>4</sup>

一年生用教科書の改訂は、教科書全体に大きな影響を及ぼす。「北海道化」に向けた五原則とも言うべき五項目が右のように示された。桜の開花、運動会、夏休み、冬休みなど、季節・行事の「北海道化」が促進されたのである。北海道版国語教科書は、その意味で、地域色も反映した「地域読本」的色彩を帯びていたと言って良からう。

この三訂版の編集会議の様子が、源政一<sup>1</sup>によつて、「小学国語（上中下）編集会議—上京記—」として、次のように報告されている。三訂版の背景、あるいは具体的な編集過程を知る上で貴重である。

一月七日、北国なら四月を思わせる暖かい午後の日のごす舗道を歩いていると、昨朝一尺余の積雪を分けて駆へかけた札幌の町のごす舗道である。北海道版「小学国語」編集連絡会議は、この日午後一時半教育出版会議室で開かれた。参加者は北海道国語教育連盟から事務局長三浦一、常任委員源政一、本間留次郎、高倉清、下沢清の五氏、教育出版社からは専務小坂佐久馬、常務穴戸馨、編集長樽井近義、国語編集部平田与一郎、田中愛子、五島恭夫の六氏と、それに東京都真土小学校校長高野柔藏氏が加わった。

小坂専務のあいさつの後、平田氏から一年生の決定原稿についての詳細な報告が行われ協議にはいった。

先ず上巻は、全部改められ、文字も、より早い時期に生活から自然に提出されるような、新しい仕組みになっていた。中巻下巻では、当国語連盟員の執筆になる文も取材され、より清新で、より郷土的なものとなった。とくに問題となった「運動会」「遠足」の配列時期が、道内の学校行事と一致するよう改められたことは、いっそう使いやすい教科書となった。この間ことばの提出、ことばづかいなどについて意見の交換を行ったが、とくに「絵について」は、北海道にふさわしくない点は細部にわたつて検討し、訂正し得る部分は直ちに手配するよう申し入れた。さし絵原画はすでに製版工場に半分以上手渡されていたので、この原画を天然色のスライドに取つたものを別室で映写し、鑑賞しながら、牛舎、サイロ、屋根、大根ほし、こくわなど一々不都合な箇所を指摘した。一年生の教科書は文字よりもむしろさし絵が本体とさえ考え

和二十九年度版)と三訂版の目次を掲げてみる。

	改訂版 (二十九年度)	三訂版 (三十一年度)
	「しょうがくこく」改訂版 一の上	「しょうがくこく」三訂版 一の上
	全面的に改稿されている。 まさに新版と言ってよいほどである	
	「しょうがくこく」改訂版 一の中	「しょうがくこく」三訂版 一の中
	くにおさんのうち うちのの人 だれでしよう おみやげ ばんごはん おはなし えほん くに子さんのうち うちのの人 おてつだい おさら おじさんのうちへ にちようび こんにちは おいしいね にわとり ひよこ 川 うぐいのこ おじさんのうち ささぶね ゆうがた どうぶつえん どうぶつえんへ ろば くま ぞう	1 せんせい おはよう みてください 2 すなあそび 3 うんどうかい かけっこ たまいれ つなひき 4 おみせごっこ 5 おはなし 6 おじさんのうち にちようび こんにちは おいしいね さようなら 7 ことばあそび しりとり あいうえおのうた 8 なつやすみ らじおたいそう えにつき 9 川 川へ きれいな水 うぐい 10 どうぶつのせわ にわとり うさぎ やぎ

られるほど重要な役目を持つものであるから、慎重な態度で望み、かき直しを嫌う一流画家にさえ直ちに連絡をとる熱心さであった。翌八日は午前中、製版、製本工場の見学。午後は会議を続行した。この日の会議の要項をまとめると次のようになる。

- 一、一年用指導書の改訂について (略—引用者)
- 二、一年用掛図について (略—同)
- 三、一年用かきかたの改訂について (略—同)
- 四、次年度の改訂について

1 次年度は二年上下、三年上下を北海道的立場から全面的に改訂する。

- 2 道内の学校から、改訂に対するアンケートを取る。
  - 3 アンケートを集計整理して、現れた意見を十分取入れる。
  - 4 指導要領の中間発表に則って編集する。
  - 5 北海道版といつても、極端に視野を狭くすることを警戒する。
  - 6 北海道の絵や写真をできるだけ多数編集部に送る。
  - 7 第一次原案は編集部で作成し、連盟側と打合わせる。
  - 8 決定原稿の編集は八月末までに終了する。(以下略)<sup>5)</sup>
- こうして一年生用上中下三巻が昭和三十一年に、そして二・三年用各二冊が昭和三十一年に発行されることになった。しかし、四年生以上は、発行されなかった。その経緯、展開については後述する。

## 2 北海道版国語教科書 (三訂版) の実態

三訂版 (昭和三十一年度版) の実態と特色を見るため、改訂版 (昭

<p>『しょうがくこくご』 改訂版 一の下</p> <p>うんどうかい いろいろなた 白と赤 つなひき たまれ だるまはこび ゆうぎ えんそく あしたはえんそく おてんきは いってまいります しゅっぱつ たんぼのみち きしゃ うみ 山の上 おみやげ べんきよう えんそくのつぎの日 みてください たのしいきようしつ みんなのつくえ みんなの本ばこ たんじようかい わたしはなんでしょう 五つのとびら おはなし「赤いまり」 かみしばい ねずみのよめいり</p>	<p>11 えんそく あしたはえんそく いってまいります たんぼのみち うみ おべんとう</p>
	<p>『しょうがくこくご』 三訂版 一の下</p> <p>1 ほくじよう 2 なぞなぞあそび 3 おてつだい 3 りんごとり だいこんあらい 4 本 5 みんなの本ばこ きくの花 きつねの おんがえし はらの中のことり 5 ふゆ 6 ふゆのよる すきい 6 おしよがつ 6 まゆだま 年がじよう 7 さくぶん 7 かるたとり ぼそり 8 ながれほし 9 たんじようかい 9 たんじようかいのそうだん あんない のがみ わたしはなんでしょう 五つのとびら ゆうぎ「おつま」 おはなし「二ひきのやき」 かみしばい 10 ねずみのよめいり</p>

<p>『しょうがくこくご』 改訂版 二の上</p> <p>1 えにつき 2 どうよう 2 こうし さよなら 3 ともだちのうち 3 米やさん せいざいしよ やおやさん 4 私たちの町 4 やくば ゆうびんきよく けいさつしよ 学校 しんりようしよ こうえん こうみんかん としよかん えき 5 ことばあそび いの字あそび なき声あそび なかよしことば 6 おとぎばなし 6 いっすんぼうし 7 げき 7 ゆうびんやさん 8 どう話 8 くりのきようだい</p>	<p>『しょうがくこくご』 三訂版 二の上</p> <p>1 よし子さんのえにつき 2 あめ玉 2 かたかな 3 友だち 3 とこや くつ さよなら 4 いっすんぼおし 5 村のみせと町のみせ 6 ことばあそび いの字あそび はんたいことば 7 山の一本ばし 8 夏休み 8 夏休みになつたら 夏休みのやくそく 夏休みがすんで 9 どんぐりぼうや 10 かん字カード</p>
<p>『しょうがくこくご』 改訂版 二の下</p> <p>1 みじかい文 1 きんぎよばち ダリアの花 めじろ まめもぎ にわ オートバイ 2 新しい友だち 3 新しい家 さあいまましよう なかよくあそぼう 3 はたらく人</p>	<p>『しょうがくこくご』 三訂版 二の下</p> <p>1 おてつだい 1 だいずおとし せきたんはこび だいこんぬき バターこうば 2 空 3 かぐやひめ 3 「かぐやひめ」のかみしばい 4 かたかなカード</p>

<p>4 お話 せんろのおじさん あみ引き</p> <p>3 お話 かぐやひめ</p> <p>2 お正月のあそび いろはがるた そりすべり</p> <p>1 学げい会 そうだん あんないの手紙 学げい会</p> <p>7 どう話 北風とチューリップ</p> <p>8 よびかけ 春をさがしに</p>	<p>5 冬のあそび さか作り そりあそび かるた作り</p> <p>6 雪人ぎょう</p> <p>7 雪のほらあな</p> <p>8 ひなまつり</p> <p>9 にしんりょう</p> <p>10 カードあそび</p>
<p>1 新しい教室 三年生になつて 手紙</p> <p>2 春の詩 春 さくら土手</p> <p>3 名人の話 ふえの名人 わざくらべ ねずみの絵</p> <p>4 動物の話 おみやげ 人を助ける犬 ぞうの話</p> <p>5 かんさつ きゅうりほどのように成長するか</p> <p>6 童話 金のさかな 風車</p> <p>7 げき つりばりのゆくえ</p>	<p>1 春のし とけい台 春</p> <p>2 おじいさんの話</p> <p>3 一ろうさんの動物えん</p> <p>4 動物の話 ぞうの話、ありの国</p> <p>5 かたかなで書くことば</p> <p>6 外国のどう話 金のさかな はだかの王さま</p> <p>7 あさがおの日記</p> <p>8 学級文集 かや さかなとり さつぽろへ行ったこと やさい畑</p> <p>9 お話会 ラッパ 馬とおおかみ</p>

<p>1 川の歌 川のかんぼう 川は大きくなる 川は働く ダム</p> <p>2 かんさつ 私のかんさつ日記</p> <p>3 かべ新聞 なかよし新聞第一号</p> <p>4 シナリオ かかし</p> <p>5 お話会 おさるのめがね 馬とおおかみ</p> <p>6 ことば ことばの力</p> <p>7 げき かえる</p> <p>8 童話 お月さまの話 ちんちんこぼかま</p>	<p>10 かん字のきょうしつ</p> <p>1 学級文集</p> <p>2 名人の話 ふえの名人 わざくらべ あぶら売りのおじいさん</p> <p>3 川の歌 川のゆくえ ダム</p> <p>4 かべ新聞</p> <p>5 むかしのとけい</p> <p>6 ことばの力</p> <p>7 手紙 北海道から東京へ 東京から北海道へ</p> <p>8 小さい神様 ふくじゅそうになつため神</p> <p>10 かん字の教室</p>
---	--

一目瞭然、北海道改訂版と大きく変わっている。三訂版とは言いながら、まさに新版と言ってよいほどの大改革であった。

特に大きく変わったのは、「一の上」である。「一の上」の末尾に「教師と両親のページ」があつて、ここに教科書のイメージがコンパクトに示されているので、小さくはなるが引用しておく。





なお、教科書最終ページの「あとがき」には、この教科書の性格等が、次のように記されている。

1 この本は、学習指導要領に準拠して作られた小学校国語科用教科書でありませんが、全国的視野にたつとともに、地方の特性に応じようよう十分に考慮しました。

2 この教科書は、さきに刊行された藤村作・北海道国語教育連盟共編『改訂・小学国語』を基本とし、現場における実際使用の反省にもとづいて、より効果的な国語指導ができるようにという立場から、さらに補訂をくわえた三訂版であります。

この『小学国語』（三訂版）の大胆な改革に対して、連盟内部で編集にかかわった本間留次郎は、次のように述べている。

この三十一年度版は全く北海道の教科書になりきっているが、その中から特に関係の深いものを拾って見ると、

・一の上では、「学校」が北海道のものをスケッチしてそこから描き出していること。季節にあわせて服装等に留意し、四月の終り頃では長ズボンをはかせてあり、五月に入って、始めて桜を掲載してあること。

・一の中では、まず目次のカットが、鈴蘭でつつみ、前に秋にあつた運動会の教材を五月―六月にもつて来たこと。初夏から夏にかけての風景にはポプラの遠景等を背して、北海道の原野の表裏に意を用いていること。

・一の下では、目次の熊百態を出し、「一牧場」から進むように編集されており、本道の牧畜農業の姿が子どもなりにわかるように、サイロ等もたくみに描き出されている。「おてつだい」で「りんご

とり」、「だいこんあらい」等の本道の様子。「ふゆ」―冬の夜、スキー……馬糞等々の教材がのっていることも北海道の教科書としては親しみ深いなつかしいものとなった。

私たちは、この三十一年度版の編集会議をおえて、寧ろ、教科書検定委員が通すかと心配したくらいである。それは、所謂内地とは凡そ考えられない。内地に居住する人々にとつては、季節なり風土なりを無視した教科書であり、これが北海道版であることを知らないで検定する時はオミットするのではないかと思つたからである。

私たちは、この一月上京して、また文部省最近の教科書検定方針等を勘案して、ますます本道教科書の必要性と価値を痛感させられた次第である。この度、全道の各校から、現在教科書に対する意見をアンケートにとつているのも、北海道の教科書は、私たち教育実家の手による教科書を作ろうとする意途<sup>マツ</sup>に言つたものである。<sup>7</sup>

しかし、こうした三訂版の斬新な試みも、三年生の編集・発行を最後に打ち切りとなつた。折しも教科書問題が浮上し、地方版教科書の発行を認めないという新事態が出現したからである。

### 3 『標準 小学国語 北海道資料編』（四年～六年）の刊行

三訂版の編集・発行は、三年生までで停止した。それでは、四年生以上の教科書はどうなったのか？ 検定教科書としては継続できなくなったため、北海道国語教育連盟と教育出版とは、これに代わる（補う）ものとして『標準 小学国語 北海道資料編』（四年～六

年)を刊行した。その「まえがき」に、本資料集編集・発行の趣旨が記されていて、この間の経緯がわかるものとなっている。

これは、教育出版の『標準小学国語』に準拠して編まれた北海道用の補助資料集です。

国語の学習指導を、いきいきと、しかも豊かに展開していくためには、国語教材の選定にきびしい目をむけなければなりません。子どもたちが現におかれている風土や社会と無関係にえらばれた資料だけによって、現実<sup>1</sup>に根をおろした人間形成がいとなまれようはずありません。『標準小学国語』は、全国共通の要求をみたくべく編集された教科書です。これを使用しながら、地域の特性に応じた、指導内容を具体化し、また発展させていけるような補助資料がほしい。そういう要望が北海の子の教育を熱心に考える教師たちのあいだに、提起されたのです。

北海道国語教育連盟は、いちはやくこれを取りあげ、資料の収集と、その組織化のしごとに着手され、ここに、四、五、六年用の三巻ができあがりました。教科書との同時併用によって、この本の意義がよくはたされますことを、こいねがってやみません。

つぎに、編集にあたってとった方針や、留意点を掲げておきます。

◇この本は、教師用として作成されたものです。子どもたちに直接持たせることができないのは残念ですが、読んで聞かせたり、板書して読ませたり、プリントしてあたえたり、いろいろの方法によって活用していただくことを期待しています。

◇この本の組み立ては、『標準小学国語』の単元構成となるべく歩調を合わせるようにしてあります。タイトルの下に、( ) をつ

けて書いてあるのは、同教科書の単元名です。

◇教科書に組織された単元のなかには、とくに地域的教材を必要としない性質のものもあります。そういう場合は、むしろ、この書でとくに資料を掲げることをしています。

◇反対に、教科書には単元として設けられていなくても、北海道の国語指導という立場から、どうしてもこういう資料をあたえたい、という場合があります。そのときは、タイトルの下の( ) に、「特設単元」とうたってあります。(以下略<sup>2</sup>)

傍線を付した部分に、本資料編集の本音がうかがえよう。もし三訂版の発行が四年生以上にも予定通り継続できていたならば、おそらくこの資料集に収められた多くの教材が採録されたものと思われる。四年、六年、それぞれ目次を掲げておく。

#### ■標準 小学国語 北海道資料編 四年

一 わたしたちの詩

ふきのとう 子めんよう 夜のジーゼルカー 学校におくれる

当番の金賞

二 民族童話

オキクルミ神のあまくだり 月男

三 ダムの見学

ダムを見学して その一 ダムを見学して その二

四 夏休みの計画

夏休みの計画 都市 農村 漁村

五 物語

やかんぐま 父の遺命にふるいたった少年の話

六 学級新聞

家庭 学校代表が洞爺丸に お知らせ たのしみページ

七 物語

最上徳内

八 動物の詩

すずめ ゆき虫 犬 ぶた 馬

九 手紙

北海道から東京へ 東京から北海道へ

十 ラジオ国語教室

北海道方言と共通語

十一 北海道をひらいた人

渡辺かね

十二 学級文集

麦かり おかあさんの手 日記 もうちようになつて 先生へ

■『標準 小学国語 北海道資料編 五年』

一 北海道の詩

父の手 明かるい鳥 石炭を拾う老婆 ノサップ岬にて

二 大雪山とくま

大雪山への道 やまごたちとくま

三 北海道の伝説と昔話

トーロ湖のペカンベ 江差の姥神さま ききんを救うアイヌラッ

クル

四 夏休みの読書

北海道のむかし話 地しんのたね かきの木のある家

五 記録文

死んだらい 出版部の仕事

六 旅行記

汽車のまどから

七 学級文集

父 かぼちゃ 石炭拾い 「南極大陸を見て」 くも

八 北のたより 南のたより

北のたより 南のたより

九 放送げき

じゅんさいのさくぬま

■『標準 小学国語 北海道資料編 六年』

一 ほくはいそがしい

ほくはいそがしい 馬 雪みちをあるいていると さいはての

教室 学級子ども会 きりわら切り にしん船 冬山

二 春待つ心

北海道の春

三 新聞と放送

北海道新聞の歴史 新聞ができるまで 放送の形式 放送の台本

四 ラジオ小学生新聞

まりも 札幌の車のうつりかわり

五 物語

島の灯台

六 見学と旅行

魚市場 漁業の基地 十勝平原 丹頂鶴 根釧原野

七 郷土史

わたしたちの北海道

八 映画

にしん漁

九 伝記

本多新

十 卒業記念文集

未来 思い出 時計台 自然の力 すだつひと声

こうして、この時、北海道では、国語教科書発行の停止を補うものとして、「北海道」色の濃い、「地域読本」とでも言つてよいような資料編を発行したのである。

前述したように、これが、おそらく三訂版の教科書原案とでも言うべきものであったのではないか。日の目を見なかつた幻の国語教科書（四年～六年）の目次であつたのではないか。このような理想が許されるならば、三訂版の完結は見なかつたものの、その精神はこうした形で曲がりなりではあるが結実したと言つてよからう。こうして北海道版小学校国語教科書は、後にも先にもない、検定教科書における一つの特異な、歴史的なできごととして出現したのであつた。

## おわりに

以上に見てきたように、ここで取り上げた「北海道版小学校国語教科書」は、地方版国語教科書として極めて意欲的に取り組まれ、その成果を示した国語教科書であつた。1「成立の経緯」、2「種類」、3「内容」、4「特色」の四つの観点でまとめておきたい。

### 1 「成立の経緯」

北海道では、自然環境（季節・気候・生産物）、社会環境（行事・習俗）などが本州と異なることから、常に「北海道には北海道の実状に即した国語教科書を」という切実な要求があつた。全国を対象として編纂される教科書（特に定教科書）ではこの不満は大きく、北海道の教師は北海道版教科書の実現を強く希望していた。折しも昭和二〇年代半ば、教科書制度が国定制から検定制に切り替わつて一教科に複数の教科書が編纂・発行されることになり、これによつて、北海道の長年の悲願が実現することになつたのである。

### 2 「種類」

こうした背景から生み出されたのが、北海道版小学校国語教科書（正式名称は『小学国語』、（1）二八年度初版、（2）二九年度改訂版、（3）三二年度三訂版の三種類―いずれも藤村作・北海道国語教育連盟編、教育出版発行、―総計三三冊であつた。二八年度初版、二九年度改訂版は、一年生から六年生までの全学年で編纂・発行された（それぞれ一三冊）。三二年度三訂版は、三年生までの七冊が発行されたところで地方版教科書を認めないという政治決断がなされ

たため、四年生以上の発行は停止ということになった。

この間、北海道版小学校国語教科書は、文字通り北海道の国語教科書として北海道全域で採択され、使用された。この影響を受けて、中学校国語教科書でも北海道版が検討されたが、実現しなかった。この斬新な試みも、小学校にとどまった。

### 3 「内容」

北海道版小学校国語教科書は、「全国」に視野を持ちつつ、「北海道」を実現しようとするものであった。二八年度初版、二九年度改訂版は、北海道の実態に合うように全国版「小学国語」の挿絵・素材を北海道用に改編した。三一年度三訂版は、さらに積極的に北海道色を出そうとして教材の改編を断行し、一大変革とも言うべきものになった。その意味で、三一年度三訂版は、本格的な北海道版小学校国語教科書を意図していたのであった。

四年生以上の教科書作成は上記の事情で不可能になったが、その精神は、『標準 小学国語 北海道資料編』（四年～六年）で継続されることになった。児童向けのものには作成できないので、あくまで教師向けとして発行された。その中には、たとえば、「民族童話―オキクルミ神のあまくだり、月男―」などのアイヌ童話、北海道開拓の基礎を確立した「最上徳内」の探検物語、あるいは「手紙―北海道から東京へ、東京から北海道へ―」という近況報告（手紙）文、さらには「北海道をひらいた人―渡辺かね―」（以上、四年）と、地方版教科書の継続が許されていたれば、おそらく採録されたであろう作品・文章が数多く収載されていた。

こうして北海道版小学校国語教科書は、北海道の自然・生活・産

業を中心に、説明文・童話・詩・伝記・紀行文などの表現形式で記述された。「北海道には北海道にふさわしい国語教科書」という北海道国語教師の悲願が継続されたのであった。

### 4 「特色」

検定教科書の多くは、いわゆる全国版であった。そうした中で、複数の教科書が発行される検定制度下では、その特色ある試みの一つとして、「全国」を視野に入れつつ、「地域」をターゲットにした教科書が発行することもその一つの選択肢となった。ただ、「地域に寄り添おうとすること」は、それだけ「全国」版としてはハンディを背負うことであった。こうした状況の中で、北海道版小学校国語教科書は編集・発行された。その結果、北海道では圧倒的に多く採択された。教科書を編集した側（北海道に即した教科書）も、また発行した側（北海道で十分な教科書採択）も、共に満足したであろう。

昭和二〇年代、戦後検定教科書スタート期は、ある意味、工夫された国語教科書が発行された時期であった。前稿で触れた信濃教育会発行の国語教科書（『国語』も地方版国語教科書であった。また、中・高等学校では、「総合版」と並行して「言語編」「文学編」といった領域別（分冊型）の国語教科書も編集・発行された。ここで見てきた北海道版小学校国語教科書（北海道国語教育連盟集、教育出版発行）も国語教科書史上、戦後期検定教科書制度下における地方版国語教科書として、特色ある国語教科書の試みであったと言える。

注

- 1 「北海道国語教育」第六号、昭二八・一・二〇、七ページ
- 2 三浦一「教科書作り」、北海道国語教育連盟『北海道国語教育十五年のあゆみ』、昭三七・五、五一～五二ページ
- 3 「北海道国語教育」第一号、昭三〇・三・五、一ページ
- 4 3に同じ。一ページ
- 5 3に同じ。二～三ページ
- 6 『しゅうがくこくご 一の上』(三訂版、教育出版)、昭三一・一  
二、二八～三二ページ
- 7 「私たちの手になった北海道の国語教科書」、3に同じ、五ページ
- 8 北海道国語教育連盟『標準 小学国語 北海道資料編』(四年・五年・六年)、昭三三・五、教育出版、四ページ

(広島大学)